

ラ・サラ 株式会社



代表取締役
木内 隆博

車椅子専用スーツからバリアフリーウェアまで

兵庫県
芦屋市岩園町41番23号

1990年(平成2年)設立
0797-32-9800

<http://www.la-sara.com>

産学連携で開発した「車椅子専用スーツ」や顧客ニーズに応じたオーダーメイドウェアで、ユニバーサル社会に貢献。紳士服・婦人服を通じ、困りごとを解決。

車椅子専用スーツの開発

大学教授との産学連携で障害者の要望に応えた「車椅子専用スーツ」のオーダーメイドを開発した。日本・アメリカ・カナダの特許を取得。バリアフリー社会の形成に向けて、ユーザーニーズに応える紳士服・婦人服のオーダーメイドを進めている。

こだわりのオーダーメイド

様々な顧客ニーズに応えたオーダーメイドに応じている。例えば、ボタンに社名や名前を入れたり、父親の形見のネクタイを内ポケットに使ったり、特殊なデザイン等、個性が光る紳士用・婦人用のオーダースーツを製作。出張による採寸・販売も可能。

ユニバーサル社会に向けて

「小児麻痺の子供にデニムジーンズをはかせたい」という母親からの要望に対応したジーンズを作成したり、内臓疾患等で運動量が減少した人々、座ったままの仕事が多い職業の人々が動きやすいウェア等、障害の有無にこだわらずユニバーサルデザインのウェアに事業を拡大し、好評を博している。

デザイン・オーダーメイドで、快く社会に進出できるお手伝いをしている。



車椅子専用スーツ



車椅子専用スーツの寸法確認



オーダーメイド（浮世絵柄入）スーツ

輪バネの 新用途開発

株式会社 三和バネ

兵庫県
尼崎市尾浜町1丁目9-8

1985年(昭和60年)設立
06-6427-9512

<http://www.sanwabane.com>



代表取締役
岡田 光洋

従来製品バネの強度を維持（増加）させつつ、かつ小ささを追求したバネの開発。

長さ63.2mm、幅12.0mmのバネで298kgの強度を有すバネの商品化

同社製品のバネは、高層ビルの解体工事に使用される。通常、高層ビルの解体は上層階から取り壊されるのが一般的であるが、この工事を行う際には、周辺地域への粉塵対策が大きな課題であった。近時、「だるま落とし工法」と言われる解体工事が開発され、ビルを低層階から取り壊す方法が開発されている。この工法では、ビルをジャッキで持ち上げ解体するビルを挟むことが必要となるが、当該部分に同社のバネが採用された。

製品の効果

- ①粉塵拡散の防止（直接効果）
- ②建築廃材の再利用（間接効果）
- ③工事期間の短縮、コスト削減（間接効果）



同社の輪バネの特徴

- ①円すい面を持った外輪と内輪を交互に組み合わせ重ねたバネである。従来のバネが「曲げ」か「ねじり応力」を利用するのと違い、圧縮荷重をかけると円すい面ですべりが生じ、内輪は圧縮され、外輪は拡張されるので、他のバネより材料単位体積あたりに蓄えられるエネルギーは非常に大きく、バネとしては最も効率が良いものと言える。
- ②輪バネは接触面が非常に大事な為、埃と湿気の影響を受けないように輪バネ保護ケースを使用する場合もある。また内輪と外輪の接触面は非常にシビアなものとなり、一番の重要部分として、高い製作技術が必要とされている。輪バネは摩擦力が大きい為、グリース（潤滑剤）が必要となる。
- ③輪バネの特徴で小さなスペースで内輪と外輪とを組み合わせ、その手法を変えることにより強度を増すことができるようになった。

包装の美を極める
街で溢れる隠れた技術

日本テクノ ロジーソリ ューション 株式会社

兵庫県
高砂市中島2-7-32

1981年(昭和56年)設立
079-443-1613

<http://www.solution.co.jp>



代表取締役社長
岡田 耕治

ペットボトル飲料等の容器に筒状のフィルムラベルを貼りつけるシュリンク装置を開発。仕上がりの良さによる「訴求カアップ」と「コストダウン」を同時追求。

検査機器ノウハウ応用

同社は、長年にわたり、大手電機メーカーに対してブラウン管の検査装置を設計・製作・販売してきた。ブラウン管の国内生産中止を予見し、今までの技術を応用し、環境対応型のフィルムを収縮させるシュリンク装置を開発した。同装置は、ペットボトル飲料等の容器に筒状のフィルムラベルを美しく貼りつける装置で、30年間培った電機製品に対する検査技術を応用し、医薬品・化粧品・食品産業に製造・販売している。

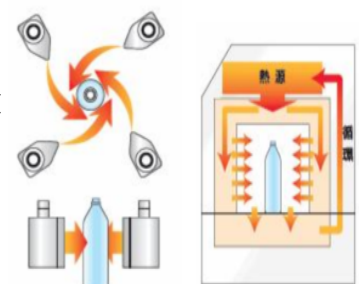
仕上の美しさとコストダウンの両立を狙う

従来の熱風式の装置は、皺やあばたがでやすく、また、熱に弱い医薬品・化粧品では加熱による成分変化も課題で、蒸気式は広い設置場所や付着する水滴が課題となっていた。

独自の特許技術であるトルネード方式や熱風循環機構を採用することにより、仕上がりを確保すると共に、設備スペースを約1/2に、電力消費量を約2/3とした「シュリンク装置PURE-2001」はシュリンク包装における仕上の美しさとコストダウンを実現した。

トルネード方式：熱風を回転させ商品がトルネードゾーンに入ると一瞬で美しく収縮
(設置スペース約1/2実現)

熱風循環機構：熱風を循環し熱と風をコントロール(省エネ・消費電力約2/3を実現)



トルネード方式 熱風循環機構

海外展開とものづくり企業の商品開発を紹介するサイト

地球規模の環境問題の高まりにより、環境対応型フィルムの需要が海外でも見込まれ、日本市場と同じように、今後、装置の切り替え需要が発生する。また、ものづくり企業の商品開発の挑戦を取材し、WEB「挑人」サイト(<http://choujin.jp>)で公開し、企業連携等に貢献している。